

## 2-5. 鉄骨造【耐火被覆の設計】

ヘーベルライトは柱や梁の耐火被覆材として使用いただけます。

ラス網補強されたパネルを専用ねじで取り付ける事で脱落の危険性が少なく、作業性もよい乾式工法です。

施工中も繊維質の飛散はなく、室内空間に用いる場合は、そのまま内装下地材として使用できます。

### ⚠ 警告：適用範囲

■耐火時間と製品パネルの厚さの関係は、下表の通りです。

■デザインパネルを使用して、意匠性の高い耐火被覆も可能です。

### ●単一材耐火構造認定番号一覧表

耐火被覆区分	部 位	耐火時間	パネル厚	認定番号	認定名称	備考
単一耐火	柱	1時間	35mm以上 <sup>(注)</sup>	FP060CN-9405	ALCパネル張/鉄骨柱	デザインパネル可
		2時間	50mm以上	FP120CN-9406	ALCパネル張/鉄骨柱	デザインパネル可
		3時間	75mm以上	FP180CN-9407	ALCパネル張/鉄骨柱	
	梁	1時間	35mm以上 <sup>(注)</sup>	FP060BM-9352	ALCパネル張/鉄骨はり	デザインパネル可
		2時間	50mm以上	FP120BM-9353	ALCパネル張/鉄骨はり	
		3時間	75mm以上	FP180BM-9354	ALCパネル張/鉄骨はり	

(注)弊社では厚50mmで販売しています。

### ⚠ 注意：下地の設計

■パネルを取り付けるための下地材(C-60×30×10×1.6以上)を柱または梁に溶接して取り付けます。

■パネルジョイント部(目地部)には、下地鋼材(C-60×30×10×1.6以上)を設けます。

### ⚠ 注意：パネルの設計・施工

■パネルは下地材を取り付けた後、実測して切断加工します。切断加工は丸ノコ(チップソー)で行います。

■パネルと下地材は、タッピンねじにて固定します。

■ねじの頭は、パネル表面より5~10mm程度打ち込んで穴は補修材で埋めます。

■パネル突付け部分は、必要に応じ耐火目地材を充てんします。

■長大柱・梁の場合は、調整目地を設けロックウールまたはAESブランケットなどの耐火目地材を充てんします。

### ⚠ 注意：関連工事

■耐火構造を貫通する設備配管やブレースなどの取合部は、ロックウールまたはAESブランケットなどの耐火目地材を充てんします。

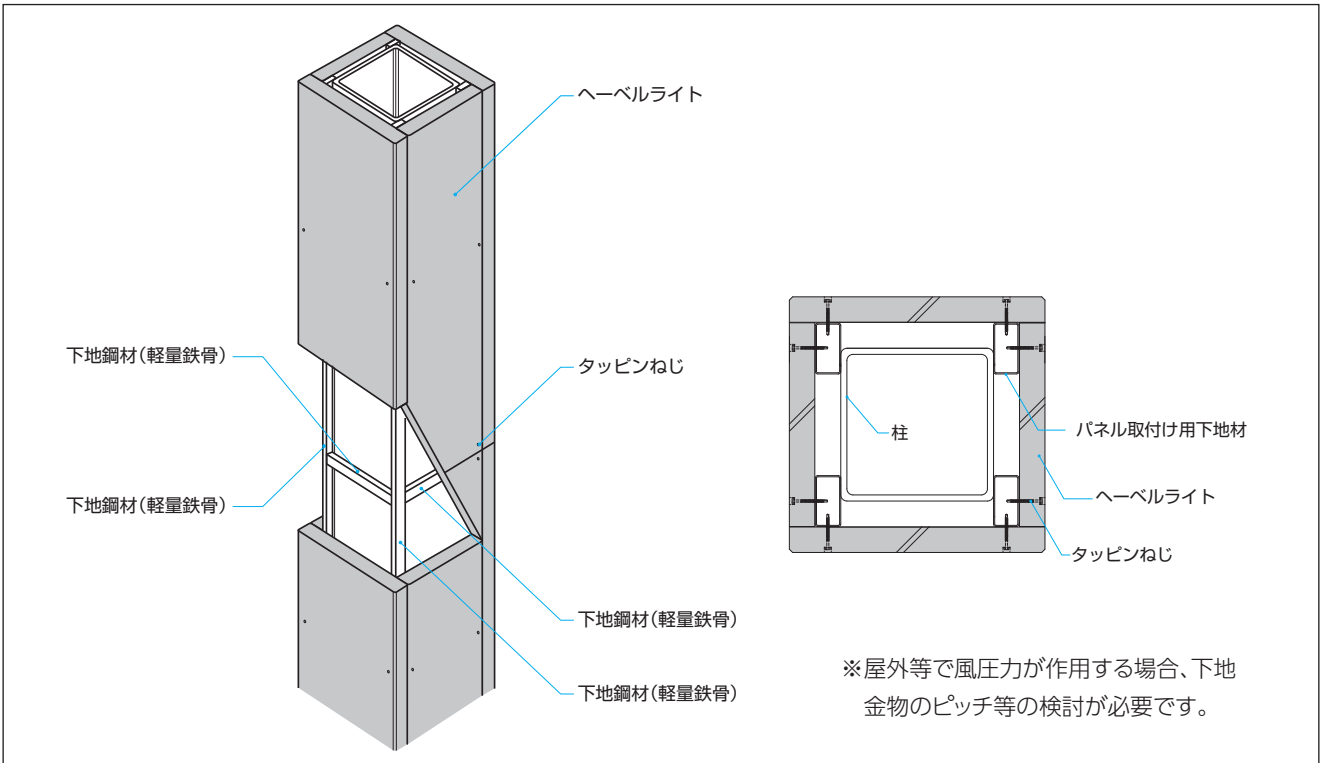
■層間変位を考慮したクリアランスには、伸縮可能なロックウールまたはAESブランケットなどの耐火目地材を充てんします。

■仕上げ材を行う場合は、①面取り加工の上吹付け塗装、②ボード張り、を標準とします。

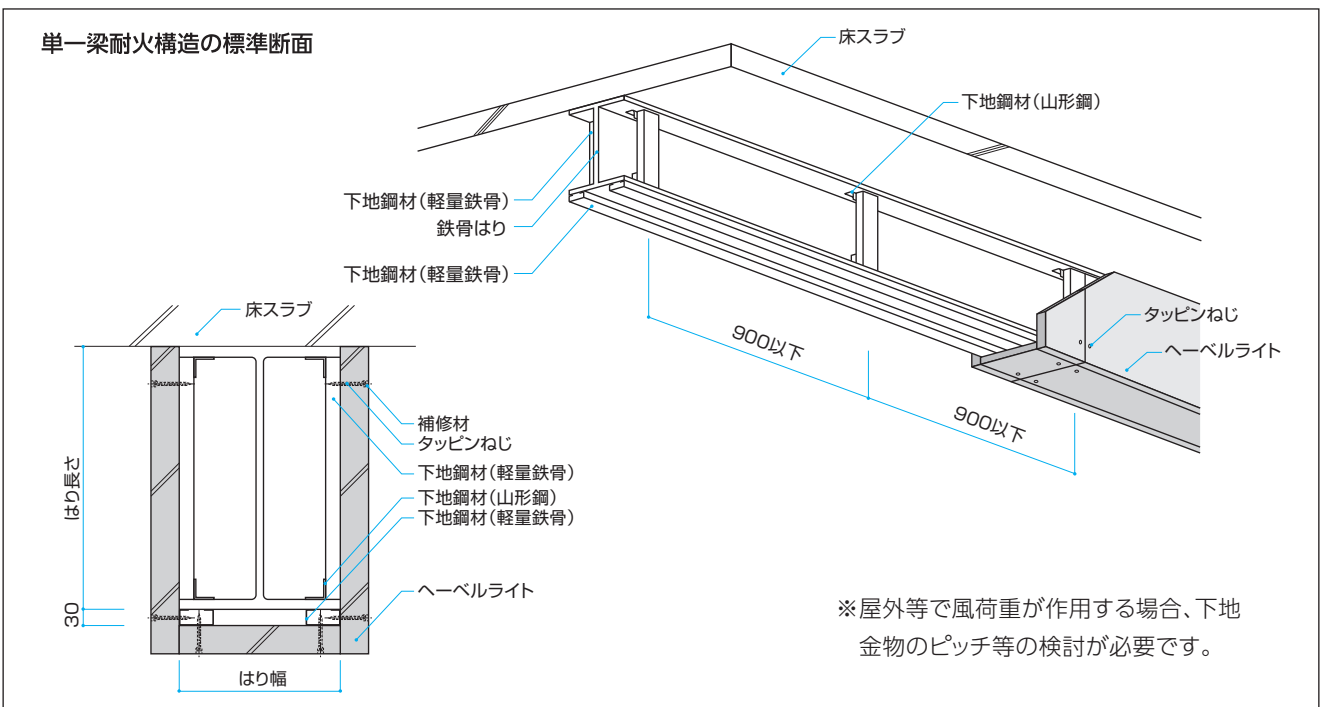
目地部に吹付け材・左官材などを充てんし目地を消す工法は、仕上げのひび割れや剥離を起こすことがありますので避けてください。

■屋外に用いる柱や梁の耐火被覆部分では、目地部にシーリング材を施し外装用の仕上塗材などを吹付けて防水性を確保します。

● 単一材柱耐火構造の標準図



- ⚠ 耐火1時間 (FP060CN-9405) 仕様の場合、パネル長さは2,000mm以下としてください。
- ⚠ 下地鋼材はJIS G3350(一般構造用軽量形鋼)に規定するリップ溝形鋼 C-60×30×10×1.6以上を用いることを原則とし、JIS G3101(一般構造用圧延鋼材)に規定する山形鋼 L-30×30×3 (ℓ=100以上)を必要により用いてください。



- ⚠ 耐火1時間 (FP060BM-9352) 仕様の場合、パネル長さは2,000mm以下としてください。
- ⚠ 下地鋼材はJIS G3350(一般構造用軽量形鋼)に規定するリップ溝形鋼 C-60×30×10×1.6以上を用いることを原則とし、JIS G3101(一般構造用圧延鋼材)に規定する山形鋼 L-30×30×3 (ℓ=100以上)を必要により用いてください。